

# 働き方改革は日本人の全人生の幸福追求のはず

在仏コラムニスト 安部 雅延

20年以上、日本の美術新聞にパリの  
展覧会情報の記事を書き続けている  
ので完全に離れていたわけではない。  
もあつたので、40年前にやめた絵を最  
近再開し、結構楽しめている。それに

20年前には、妻の郷里のフランス西部ブルターニュ地方で行われた国際絵画コンクールに飛び入りで参加し、賞と賞金を貰い、小さな満足を得たこともある。だから、どんなに疲れっていても絵を描くと不思議に元気が出る。

それも画家をめざしていた頃は野  
心満々で、過去にない絵画様式を世  
に問い合わせたいなどと息巻いていた  
が、今は無欲無心で観るモティーフ  
に向き合い、素直に感動しながら苗  
に

いているのがいいのかもしれない。楽  
しみなくなつたら辞めればいい。  
描いた絵は、迷惑を承知で親戚や  
知り合いにプレゼントし、喜んで貰つ  
ているのも楽しみの一つだ。人間に

とつてより多くの人に喜んでもらうこと  
ことで得られる満足は、大きな生き  
る力になる。

足感を得られるかは理解している。  
私の場合は、小学生の時から油絵を描き、画家になろうと思つた時期

残念ながら、長時間労働、過重労働を繰り返し、仕事中心に生きてきた多くの日本のサラリーマンにとつ

て、第2の人生を楽しめている人は少ないという。団塊世代が一挙に定

ともメールをやりとりされなくなつたという。

年退職した数年前、第二の人生の過ごし方は日本でも話題になつた。

人「が多く、競争が激しく、高度経済成長期に酷使され、失われた20年で苦戦しながら生きてきた団塊世代は、現役時代に仕事以外で心の底か

ら満足で生きるものを探し出せた人は少ないだろう。無論、その前もその後の世代も似たようなものだが。

最初は、毎日が日曜日と喜んでいたのが、1年も経つと恐ろしい退屈をどう埋めるかで悩み始め、やがて高齢者のハローワークに通い働き始

めたりする。無論、今は定年退職後に嘱託で会社に残るか転職して仕事続けたいと考える人は少なくない。

30年前、定年退職後、妻や娘にパリに連れてこられた男たちが、妻たちが買い物する間、ベンチに寂しく座っていた姿をよく見かけた。彼ら「濡れ落ち葉」たちの姿は、今もそれほど変わっていない。

最近、電通に35年間勤める古い友人と会った。電通は女性職員の過労

自殺以来、最終就労時間を午後10時と定め、それ以降は会社に残ること

燃え尽き型人生の終焉

無論、電通のルーツは通信社だつたこともあり、定時で働く業種ではない。批判はされないが、今でも新聞社やテレビ局は電通並の長時間労働をしている可能性は十分ありうる。しかし、それでも世界的に見わざる異常な状態と言わざるをえない。

燃え尽き型人生の終焉

7月、8月には3週間以上の長期休暇をとるフランス人だが、祝日が

非常に多い5月などは、休みの合間に働いているような印象だ。事実、祝日と組み合わせて有休をとるフランス人は多いので、職場はガラガラ状態になる。

管理職には就労時間の制限は法

的ないが、有休をこなさない人はいない。とにかく、残業をする社員は無能とされ、残業をさせるような上司もパワハラと見られる。いかに短い時間で多くの結果を出すかに集中している。

そんなフランス人は、週末や長期休暇のプライベートな時間を充実させることに余念がない。たとえばサイクリングスポーツが盛んなフランスで



は、100万円もする自転車を購入し、フランスのみならず、他のヨーロッパの国にかけ、サイクリングを楽しんでいる。スポーツクラブも山のようあり、そこで付き合いも盛んだ。

興味深いのは、夏の長期ヴァカンス先で、退職後の人生について情報交換している姿をよく見かけることだ。友人のマリ・エレーヌは昨年、

ヴァカンス先の南仏ドラギニヨンの滞在した貸別荘のオーナーに、老後の過ごし方の情報を熱心に聞いていた。時々、フランス人の話を聞いていると、普通のサラリーマンが日本でいう退職後に働き続けることに興味がある人は、ほとんどいない。

これまで2回、国際医療支援団体、国境なき医師団のパリ本部を取材したが、ボランティアが講じて専従者になつた人は少くないという。

ある財務担当者は、35歳まで銀行職員で週末だけ同団体で活動していたそうだ。だが、銀行より国境なき医師団の活動の方が、はるかに満足度が高かつたので、給料は半分になつたが、専従することにしたという。「とにかく自分が誰かの役に立つていることを毎日実感できる」と今は非常に満足していると話していた。

日本人は働くことが信仰化しているように見える。つまり、働き続けなければ豊かな生活はできないという思い込みだ。フランス人は長期ヴァカンスでも、ホテルには泊まらないし、行つた先でスーパーに買い出しに行き、お金は使っていない。

フランスなど他の先進国に比べ、

日本人は今でも遊ぶことが非常にへタだ。その原因の一つが、長期有給休暇が取れないことで、短い休暇に凝縮して楽しむために高額出費する

から週末や有給期間中にしているケースが多い。

これまで2回、国際医療支援団体、国境なき医師団のパリ本部を取材したが、ボランティアが講じて専従者になつた人は少くないという。

ある財務担当者は、35歳まで銀行職員で週末だけ同団体で活動していたそうだ。だが、銀行より国境なき医師団の活動の方が、はるかに満足度が高かつたので、給料は半分になつたが、専従することにしたという。「とにかく自分が誰かの役に立つていることを毎日実感できる」と今は非常に満足していると話していた。

日本人は働くことが信仰化しているように見える。つまり、働き続けなければ豊かな生活はできないという思い込みだ。フランス人は長期ヴァカンスでも、ホテルには泊まらないし、行つた先でスーパーに買い出しに行き、お金は使っていない。

フランスなど他の先進国に比べ、日本人は今でも遊ぶことが非常にへタだ。その原因の一つが、長期有給休暇が取れないことで、短い休暇に凝縮して楽しむために高額出費する

ケースが多いことだ。

もう一つの原因是、日頃から人生を楽しむことを養つていないこと。就業後や毎週末にもプライベートな時間があるわけだが、そこでの楽しみは、せいぜい飲食くらいで、フランスのように毎週末、友人や親戚、近所の人を招いたパーティーを頻繁に行つたり、ボランティア活動したりしていない。

つまり、生活が仕事中心でメリハリがなく、それは仕事の効率化にも悪影響を与えている。なぜそうかといえば、まじめに働きなれば生きていけないと想い込んでいるからだ。

長期ヴァカンスや週末に人が消費することは、実は国全体としてお金が回ることを意味し、経済効果は大きい。企業が内部留保ばかりを増やしているのは、人間が中心ではない企業中心文化があるからだ。そんな文化を根本的に改めるのが、働き方改革の本筋ではないだろうか。

日本人は今でも遊ぶことが非常にへタだ。その原因の一つが、長期有給休暇が取れないことで、短い休暇に凝縮して楽しむために高額出費する

ケースが多いことだ。

もう一つの原因是、日頃から人生を楽しむことを養つていないこと。就業後や毎週末にもプライベートな時間があるわけだが、そこでの楽しみは、せいぜい飲食くらいで、フランスのように毎週末、友人や親戚、近所の人を招いたパーティーを頻繁に行つたり、ボランティア活動したりしていない。

つまり、生活が仕事中心でメリハリがなく、それは仕事の効率化にも悪影響を与えている。なぜそうかといえば、まじめに働きなれば生きていけないと想い込んでいるからだ。

長期ヴァカンスや週末に人が消費することは、実は国全体としてお金が回ることを意味し、経済効果は大きい。企業が内部留保ばかりを増やしているのは、人間が中心ではない企業中心文化があるからだ。そんな文化を根本的に改めるのが、働き方改革の本筋ではないだろうか。

日本人は今でも遊ぶことが非常にへタだ。その原因の一つが、長期有給休暇が取れないことで、短い休暇に凝縮して楽しむために高額出費する